

総括と展望

【司会 水島】

それでは時間になりましたので再開します。最後に「総括と展望」として3人のアドバイザーの方に本年の活動内容に関する感想、ご意見をいただき、さらに今後の活動についてどのように展開していくべきか、村の事業の進捗などに助言をいただきたいと思います。まず、会長の長南先生からお願いします。

【会長 長南】

展開までいくかどうかわかりませんが、感想を少しお話ししたいと思います。

暮らしを支えるネットワーク

私が会長職を受けてから一番困ったのは「暮らしを支えるネットワーク」の意味でした。先ほど佐藤さんから非常に分かりやすく「いま以上に、楽に、楽しく暮らすために」というまとめがありました。それを聞いてなるほど、ネットワークを利用して、そういう暮らしができるようにする、これならできそうかなと感じました。

新たなコミュニケーションの出発点

高野さんからは、食材を栽培する、調理する、そして共に食べるという流れをお話しいただきました。とくに、共に食べるということは大変重要なことだと感じています。私は農業経済に関わってしまして、いろんな委員会に出る機会があります。その中に料理家の方が委員になっているものもありまして、その料理家は毎日夕食で食べたものを携帯電話で写真に撮って、離れて住んでいる東京の娘さんに送るそうです。これは共に食べるというコミュニケーションのひとつであり、初山別村でも札幌や離れたところに住んでいる子供たちに「今晚は何を食べたよ」と送るということが考えられます。村のみんなが携帯端末を持って離れたところと通信できる環境ができるということは、画像や映像で確認できるような新しいコミュニケーションを作る第一歩なのかなと感じます。

教育とICT

小松川さんのお話は非常に具体的で分かりやすく聞いていました。実は私も研究会でiPadが話題になっていたので買って

ました。たいへん優れたものだと実感しています。老人は使えない、使いにくいという話がありますが、近頃特に老眼が進んでいる私が使ってみて重宝しているのは、文字や画面を自由に大きくできることで、これは素晴らしい機能です。指でちょっと動かして大きくすると老眼鏡を掛けなくても読めるんですね。iPadに限らず年寄りに使えるものができてきたと感じますし、これからいろんな機種が出てくるのじゃないかと思っています。こういう機材は年寄りが使えないものだとは決して思いません。

教育の話に戻ります。私のところでは一学年25人の学生を引き受けていますが、それぞれに高度な教育をしようとするといへんです。個性はそれぞれバラバラですし、見合ったものを考えるには講義メニューに頭が痛いのです。そういうときに役立ってくれるのが、iTunes U (アイチューンズU) です。これはインターネット上でハーバードやエール大学など世界の一流大学の基礎的な講義などを無料で利用できる仕組みでして、ここに出ているものを読んでおきなさい、調べておきなさいと言って、それを資料にして学生とお茶を飲みながら講義することができます。教育する側にとってそういうことが可能になった、大変便利になってきた、これからも大いに期待したいと思っています。

iPadを子供たちが使うには、少し困ったサイトもありますし、子供たちが知らないうちに誘導されるようなことも考えられますが、それ以上に素晴らしい世界が広がる素材だと思います。問題になるようなところは、その使い方について誰かが少し交通整理して教えてやることで解決できると思いますし、先生方も大変だとは思いますが、小松川先生や学生さんが具体化している教材づくりに関わっていきながら、大きな効果が見込まれる素材を利用していくことが大事なことだと考えます。

先進事例の発信

買い物弱者について報告された志田さん、気象協会の大島さん、それぞれのシステムについて専門家の立場からお話しいただきました。田舎に行くと防災などで随分と光ケーブルが使われていて広い意味でいろいろな通信手段が利用されているかと思っています。

あまり深く実態を知りませんので、コメントできる立場にありませんが、光回線、Wi-Fi との連動で、防災や生活支援の仕組みについて、ぜひとも北海道らしい先例、初山別村からの先進事例の発信をやっていただきたいと念願しています。

【水島】

ありがとうございます。続きまして研究会副会長の北海道地域農業研究所の黒澤さん、お願いいたします。

【副会長 黒澤】



いつも私の話は時間超過してしまっていて、今日もどなたかの監視の目が光ってますので手短かにまとめてお話しします。今日の研究会は多方面からいろいろな報告をいただきまして私自身も新しい知見を得ることができました。みなさまに感謝します。みなさんの話の中で何点が気のついたことをお話しします。

宅配システムの利用と問題点

村では「生協トドック」の普及率が高い、かなりの方が利用されているということで少し意外な感じがありました。実は我が家でも家内が「トドック」を使っています。車も持っていて、たまには量販店に買い物にも出のですが、定常的なものは「トドック」で済ませています。たまに私も「トドック」の商品リストを見るのですが、かなり煩雑な内容で、私のように慣れ親しんでいない者にとっては選ぶことと、間違いないように注文をチェックするだけで、たいへん疲れてしまいます。

これは「トドック」だけでなく、ほかの宅配やネットショップなども似たようなもので、利用するにも一定のスキルがいるようでして、使い方をきちんと体得してないと、たいへんだなと感じてしまいます。これから先、村でネットショッピングをシステム化するわけですが、中高年齢層に向けて、作る側で特徴や間違いのない利用方法などを周知する、お客様向け、利用者向けの講習会を開いて抵抗無く利用できるようにすることが必要です。

また先ほどから「イオンと地元商店の共存」について話されていますが、これは非常にいいことです。「トドック」やネットショップが栄えて、地域の小さな商店が店を畳むことがあってはならないことです。大

きな資本と弱小の地元商店、それぞれがお互いの長所をうまく利用しあって短所を補い共存するのが大事なことで、ぜひとも共存・共栄の道を探ってほしいと思っています。

「トドック」や宅配では、何人かのグループの拠点となるところに商品が届き、そこから注文したそれぞれの家に分類してると思いますが、私の経験で少しお話しすると、認知症の方の買い物に顕著な特徴があります。家に行ってみると全然必要ないと思われるものが大量にある、同じようなものも随分とありまして、これは買ったことを忘れて同じものを買うわけです。本人に尋ねても埒があきません。恐らくこうしたことが認知症の初期段階だと思うのですが、お年寄りの方の買い物に地域のみなさんがお互いに注意するだけで、認知症かどうか早い段階で分かるかも知れません。宅配などの買い物の傾向を地域のみなさんの見守りシステムに使えるのではないかと感じました。

教育システム

教材や仕組みで分かりやすい説明がありました。新しい方向が見えてくるようで期待が高くなってきます。みなさんがいろいろ動いて、その先に何が見えるのかと考えますと、恐らく究極の目的は佐藤先生が話された「楽に楽しんで」ということにつながるんじゃないかと思います。先生方が楽しんで教える、子供たちももちろん楽しんで勉強する。教育の場でこのシステムを使い、楽しみながら学ぶことができる。これは非常に大きな意味があると思います。

行政の支援システム

「てん蔵」を基にした行政情報や農家の生産管理の仕組みにつきまして説明いただきました。豊富な機能を持ってますし、大変面白い内容でいろいろな使い方ができると思うのですが、システムが開発途上とのことで、また専門的すぎて少し分かりにくかったかなと感じました。

大変に豊富な機能を持っているので、上手く使って下さい、あれもできます、これもできませんと言われても、使う側は素人ですべてを理解することはなかなか難しいわけです。大きなシステムから必要とする部分を切り出して初山別村用にカスタマイズしたのはたいへんな技術を要したものと理解はできます。願わくば、その技術をもう少しユーザーライクに、簡単に、使いや

すい工夫をして、わかりやすくすることも必要かなと感じました。

研究会と地域の連携

初山別村の事業について私どもは応援団として参加しています。大事なのは地域のみなさんの発想やモチベーションが第一ということです。突拍子のない発想でも構わないと思うのですが、こんなふうにしたい、こんなことが考えられるなど、いろいろな注文を出していただくことで我々応援団も様々な角度からいろいろな答えを出せると思います。村のみなさんが望むことをどうフォローアップできるか、そこを初山別村とどう連携していくかが研究会に課せられた使命と考えています。

【水島】

ありがとうございました。それでは続いて北星学園大学文学部の阪井教授、お願いします。

【阪井会員】



北星学園大学文学部心理応用コミュニケーション学科というところで、昨年の春から教員をやっています。その前は北海道新聞の記者をしていまして、最後の仕事は東京でメディア委員という

ことで、インターネット時代に新聞はどう対処していくのか、どのように情報を発信していくのか、いかにして部数を増やすかなどを考えていました。その中で、日常的な暮らしにとって、人と社会、人と人とのコミュニケーションがいかに大切なことを思い知らされまして、学科の名称にも入っていますが、その大切さを学生たちに伝えていきたいと考えています

足の役割とコミュニケーション

お年寄りの買い物などで子供が足の役割をしているという佐藤先生の説明がありましたが、そうしたコミュニケーションが薄れて行く、なくなってしまう恐れがあるというのは、地域社会が壊れてしまいます。そうならないために方法を講じる、ICTで仕組みづくりをする、これは地域にとって非常に大切なことで、そんな仕組みができると素晴らしいと思います。またイオンなどの宅配を利用することで、地元商店と地域のみなさんのコミュニケーションが薄れていくことがないように、どうすればいい

のかを考える必要があります。私も何かアイデアを出せればと感じています。

教育とコンテンツ

私の学科では、新聞を教育に生かすという取り組みをしていますが、その中でコンテンツをいかに上手く使うか、あるいは良いコンテンツを作るといったことが必要になっています。私どもも学校の先生方と打合せ、お互いに知恵を出し合っている形を考えようと取り組んでいます。

村のみなさん一人ひとりが主役

村のみなさんが主体になって事業に関わる、というのが一番重要なことだと思います。会社でも同じだと思いますし、世の中の仕組みもそうだと思いますが、新しいことに取り組んでいきますと大きな壁や課題が必ず出てきます。そうしたときに乗り越えて発展させる原動力は、主体的に動いている人たちを村のみなさんが支援することで生まれます。

私はこの事業はとても素晴らしい事業だと思っています。それを生かすのも殺すのも村のみなさんの考え方にすべてかかっていると思います。ぜひとも成功させて、楽しく暮らしていただきたいと願っています。今後も出来る限りのお手伝いをさせていただいて、素晴らしい成果をみなさんと一緒に分かち合える日がくることを夢見ています。

【水島】

ありがとうございました。以上を持ちまして総括と展望を終わります。最後に、初山別村佐藤副村長から、閉会のご挨拶をいただきます。佐藤副村長、お願いいたします。

閉会、あいさつ

【初山別村 佐藤副村長】



初山別村・暮らしを支えるネットワーク研究会の閉会にあたりまして、ひとことごあいさつ申し上げます。冒頭に村長からお礼を申し上げたところでございますが、年度末を控えまして何かとご多用な中、会員のみなさまにおかれましては、この会に出席いただきまして、研究会

の成果をご報告いただきました。心から感謝とお礼を申し上げます。

また、村内から議員のみなさまをはじめ各関係機関、団体そして村民のみなさまの多数のご出席をいただきましたこと厚くお礼申し上げます。

23年度の事業実施概要、研究および事例報告、総括と展望ということでお話をいただきました。この研究会は「住民の暮らしと地域産業の活性化をトータルにサポートするネットワークモデルを構築し、情報通信の利便性の活用によって生活環境の改善と産業の活性化を目的とする」ことにあります。先ほどから先生方に村民の力がぜひとも必要とのご指摘をいただきましたが、私どもも含めまして村のみなさんが協力し、研究会と連携しながら事業を進めることに大いに期待しているところです。

現在、本村の高齢化率は34%を越えまして、少子高齢化、過疎化が進んでいる中で村民のみなさんの今後の暮らしをどう支えていくかが大きな課題になるかと思っています。このネットワークが構築されることで、産業振興あるいは高齢者対策、福祉・医療、教育振興など様々な分野での利活用

が可能になると思いますが、いずれにしても使うのは村のみなさんです。村民のみなさんにとって使い勝手の良い、そして高齢化社会に適したシステムにつきまして、それぞれの専門分野での研究、検討をさらにお願したいと思っています。村としては、村民のみなさんが安全に安心して楽しく暮らしていくことが第一と考えています。今後も、村民のみなさまのご意見、また研究会からご指導、ご指摘をいただければ幸いです。

最後になりましたが、ご出席いただきましたみなさまに重ねてお礼を申しあげましてあいさつに代えさせていただきます。本日はありがとうございました。

【水島】

どうもありがとうございました。以上で本日の研究会次第すべてを終了します。長時間に渡りまして、最後までお付き合いいただきまして、たいへんありがとうございました。